

上へ

お薬手帳

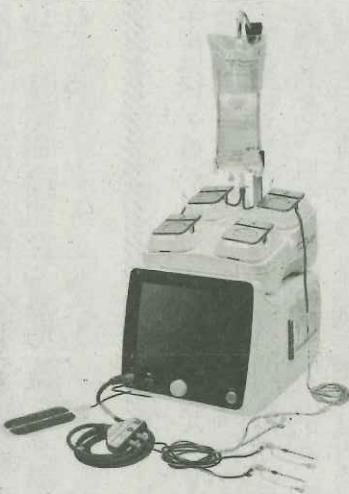
理解「患者と医療者のコミュニケーション」に役立つた9割以上が回答。「薬剤治療の向上に役立つた」も8割を超えており、好評だ。

一部の薬局チェーンで導入されたが、当初は道内198医療機関等に同手帳の案内を送ったものの、参加は21施設などまつた点を課題に挙げる。

「動脈硬化危険因子の管理目標達成率の向上に成った手帳は重要なツールとして今回作成した手帳を有効活用して欲しい」と三浦副理事長は期待。医療機関や薬局・薬局企業に向けた働きかけを継続していく考えだ。

変形性膝関節症にクーリーフ導入

術後「痛みが半減」7割



日本関節病学会評議員としていち早くクーリーフに注目した鈴木副理事長

電極針を膝の2～3カ所に刺入。脳に痛みを伝え未梢神経にラジオ波を発生させて神経を遮断する。

同病院では外来時に膝関節の知覚神経をプロックするテストを行い、同治療法が適応するかを見極める。痛みの改善が見込まれる場合、施術を提案。神経にラジオ波が当たると痛みが生じるため、静脈麻酔と局所麻酔を併用しており、1～2泊の入院が必要となる。両膝を同時に施術できて、手術時間は約1時間。

「これまで実施した4例いずれも痛みが改善された」と、治療を担当する鈴木孝治副理事長。臨床報告では、施術後に痛みの程度が半分になつた割合は7割を超えた、痛みの度合いは10段階のうち3程度まで軽減されるという。2年間以上効果が続き、痛みがゼロにならないとしても、通院の頻度、痛み止めの注射や薬剤が減るなど患者にとってのメリットは大きい。

関節病学会会員で認定医のいる施設▼適切なフォローアップ体制を有する▼局所麻酔薬中毒などの緊急時に対応できる▼整形外科的手術が実施可能な医療機関一などがある。

豊平区の北海道整形外科記念病院（加藤貞利理事長、近藤真院長・199床）は、変形性膝関節症にC001ief

（クーリーフ）疼痛管理用高周波システム（ラジオ波治療）を導入した。

門医による低侵襲な治療法で差別化を図る。手術

広がる。

クーリーフは、変形性膝関節症による痛みを抑える治療法。具体的には

人工関節再置換術など患者にとっては選択肢が

供できるのは、大きな差別化にもつながる。

今後は周知を強化し、症例数を増やしていく。

釧路三慈会病院が先駆けて導入しているもの、道内での導入施設は数少ない。人工関節手術の評価が高い同病院で、さらに低侵襲の治療を提

置換術等手術療法だった。クーリーフはその中間に位置付けられる。

93歳の患者は、保存療法では改善が見られず、満足度も高かつたという。

同病院は変形性を含む膝関節症への人工関節置換術患者数は152例、全人工関節置換術は年間288例の実績を持つ。

ラジオ波治療で効果を見出めない場合は、手術療法を選択できるのも強みとなる。

手術療法ではリスクが高いと判断。クーリーフで治療したところ痛みが改善され、満足度も高かつたという。

同病院は、人工関節置換術への人工関節置換術患者数は152例、全人工関節置換術は年間288例の実績を持つ。

ラジオ波治療で効果を見出めない場合は、手術療法を選択できるのも強みとなる。

手術療法ではリスクが高いと判断。クーリーフで治療したところ痛みが改善され、満足度も高かつたという。

同病院は変形性を含む膝関節症への人工関節置換術患者数は152例、全人工関節置換術は年間288例の実績を持つ。

ラジオ波治療で効果を見出めない場合は、手術療法を選択できるのも強みとなる。

手術療法ではリスクが高いと判断。クーリーフで治療したところ痛みが改善され、満足度も高かつたという。

手術療法ではリスクが高いと判断。クーリーフで治療したところ痛みが改善され、満足度も高かつたという。